



<43>

夏休みの使い方

大学受験を目指す高校3年生にとってこの夏休みは受験の天王山。1日10時間から12時間を勉強に費やしているのが実情である。一方高1、高2生においては、勉強よりも部活やアルバ

非日常的な空間に身をおく夏であつてもよい。今、興味や関心があることを深掘りして行動する。さまざまな業界や分野の話

を聞き、普段は行けないところへ行ってみる。自分の進むべき道(進路)を模索する夏であることにある。

目的はグローバル化社会において不可欠な英語。「英語を学ぶ」と「英語をツールとして」の違いを体感する。中には一睡もしないで夜明けを迎える者もいる。そして最終日、英語でプレゼンをして英語で評価を受ける。まさに英語

初日の早朝、羽田空港に不安そうなお顔を集まった高校生が、一つのことを本気でなし遂げ自己変革が起こっている。空港での解散時には、将来の自分の青焼きを頭に浮かべる発言が友達同士で飛び交っている。



中萬学院大学受験指導事業部長 井川 隆成

進むべき道 模索を

イト、友人や家族との旅行などで、高校生活を満喫しているようにあろう。

しかし、長期の休みだからこそできること、自分への投資、インプットをする機会として、

今年も昨年同様に、7月下旬から2泊3日で秋田県にある国際教養大学(AIU)に「CA MPUS VISIT」で高校生を引率した。

このプログラムではAIUで授業と同様に授業はすべて英語。授業を通じて英語で課題を2日目の夜は寝る間も惜しんでリポートを書く。

このプログラムではAIUで授業と同様に授業はすべて英語。授業を通じて英語で課題を2日目の夜は寝る間も惜しんでリポートを書く。